

2023年7月期 決算説明会

2023.9.25



2929



【免責事項】

本資料に記載されている予測、見通し、戦略およびその他歴史的事実ではないものは、当グループが資料作成時点で入手可能な情報を基としており、その情報の正確性を保証するものではありません。

これらは経済環境、経営環境の変動などにより、予想と大きく異なる可能性があります。



2023年7月期 業績ハイライト

セグメント別ハイライト

	ポイント
連結業績	<p>全セグメント増収。最終利益30億円を計上、自己資本比率は26.6%に上昇。コンビニ向け自社ブランド製品、通販向け新製品及びプロテオーム解析サービス等、全セグメントにおいて新たな取組みが着実に成長中。</p> <p>中期経営計画達成に向けて、新事業・新製品への研究開発・設備投資の強化に取り組む。</p>
BtoB事業	<p>当社が先駆けた睡眠及び脳機能改善素材市場でPharmaGABAが好調。コンビニ、ドラッグストアなど新たな販売チャネルでの自社ブランド製品を育成中。</p> <p>医薬品製造受託事業は、受注単価見直しで売上及び利益に貢献。</p>
BtoC事業	<p>広告投資の適正化に取り組み、セグメント利益37億円を計上。</p> <p>主力ニューモの安定的な顧客基盤に、新製品効果も加わり、グループ全体の定期顧客件数は94万件。新製品の「DRcula（キュラ）」シリーズ、明治薬品の「シボラナイトGOLD」が売上に貢献。</p>
バイオメディカル事業	<ul style="list-style-type: none"> ①自己免疫疾患の抗体創薬が臨床入り目前 ②厚労省のAMED次世代抗体プロジェクトで、リード抗体作製 ③全国の大学との共同研究により、創薬パイプラインの拡充 ④プロテオーム解析サービス「OLINK」が増収に寄与
新価値創造 1K	<p>アグリ、卵殻膜繊維等新製品・新分野の研究開発が進捗。社会実装から事業化のステージへ。</p>

連結売上高

(百万円)

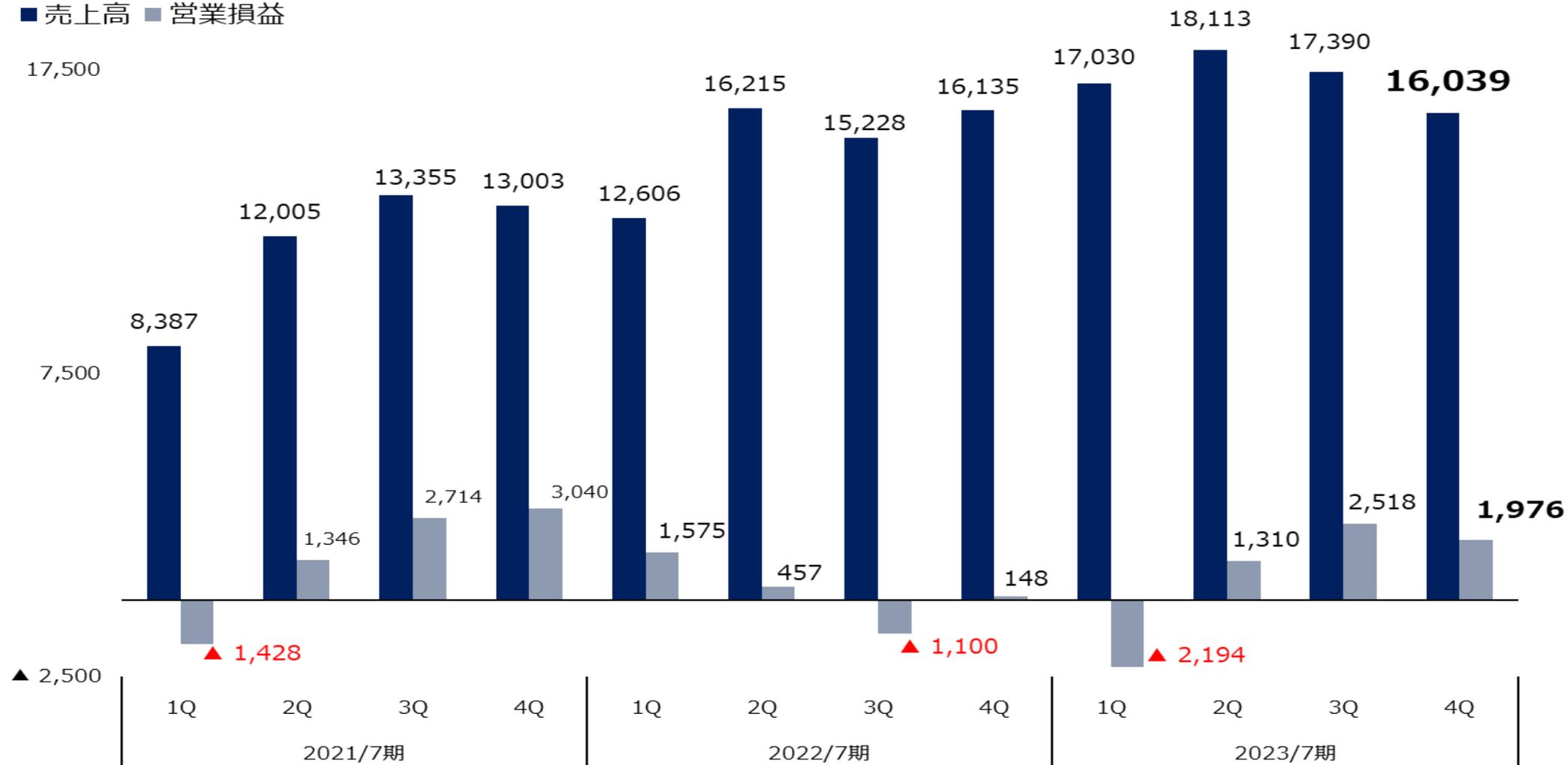
	2022年 7月期	2023年 7月期	増減
BtoB事業	8,079	8,418	4.2%増
BtoC事業	51,886	59,788	15.2%増
バイオメディカル事業	220	343	55.8%増
その他	—	21	—
合計	60,185	68,572	13.9%増

	2022年 7月期	2023年 7月期	増減
BtoB事業	1,660	1,301	21.6%減
BtoC事業	638	3,746	486.9%増
バイオメディカル事業	▲231	▲278	▲46
その他	—	▲5	▲5
調整額（全社費用等）	▲986	▲1,154	▲175
合計	1,080	3,610	234.1%増

連結四半期業績推移

■ 売上高 ■ 営業損益

(百万円)



広告投資の適正化及び新製品の広告投資効果により、当初連結業績予想から大きく黒字化を実現。2024年7月期は、「中期経営計画2026、1Kプロジェクト」の連結売上高1,000億円の実現に向け、新規素材探索、研究員の採用強化等の研究開発投資、新事業の社会実装を見据えた投資へ。



B to B 事業

【新価値創造】 自社ブランド製品

新製品 × 新市場

自社ブランド

コンビニ

➡2023年3月の資本業務提携により、エルビー社と共同でコンビニチャネルの開拓、自社製品の製造を実現

第1弾「**明晰ラボ**」

第2弾「**筋肉ラボ**」

第3弾「**朝ラボ** 朝から元気」
「**夜ラボ** 夜安らかに」

第4弾「**GABA緑茶**」



アイテム別売上

(百万円)

	2021/7月期					2022/7月期					2023/7月期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
機能性素材	334	518	501	754	2,109	252	431	391	633	1,708	375	440	564	620	2,002
機能性製品	126	179	267	169	743	252	169	242	261	925	289	484	449	145	1,368
CMO	-	-	-	-	-	-	1,672	948	1,021	3,642	892	1,104	1,076	1,117	4,190
CHC	-	-	-	-	-	-	869	466	465	1,801	312	172	294	78	857
合計	460	698	769	924	2,852	504	3,143	2,048	2,382	8,079	1,869	2,201	2,384	1,962	8,418

- ※ 機能性素材 : PharmaGABA、ボーンペップ等
- ※ 機能性製品 : OEM、越境EC、自社ブランド製品などの最終製品の主にBtoBチャンネルで販売
- ※ CMO (Contract Manufacturing Organization) : 医薬品製造受託機関
- ※ CHC (Consumer Health Care) : ドラッグストアでの医薬品及び機能性食品等の販売

**国内で「PharmaGABA」の機能性素材が好調により過去最高の売上を獲得。
重点分野の機能性製品では、自社ブランド製品、越境ECが増収に寄与。
明治薬品のCMO（医薬品製造受託）が売上及び利益をけん引。**

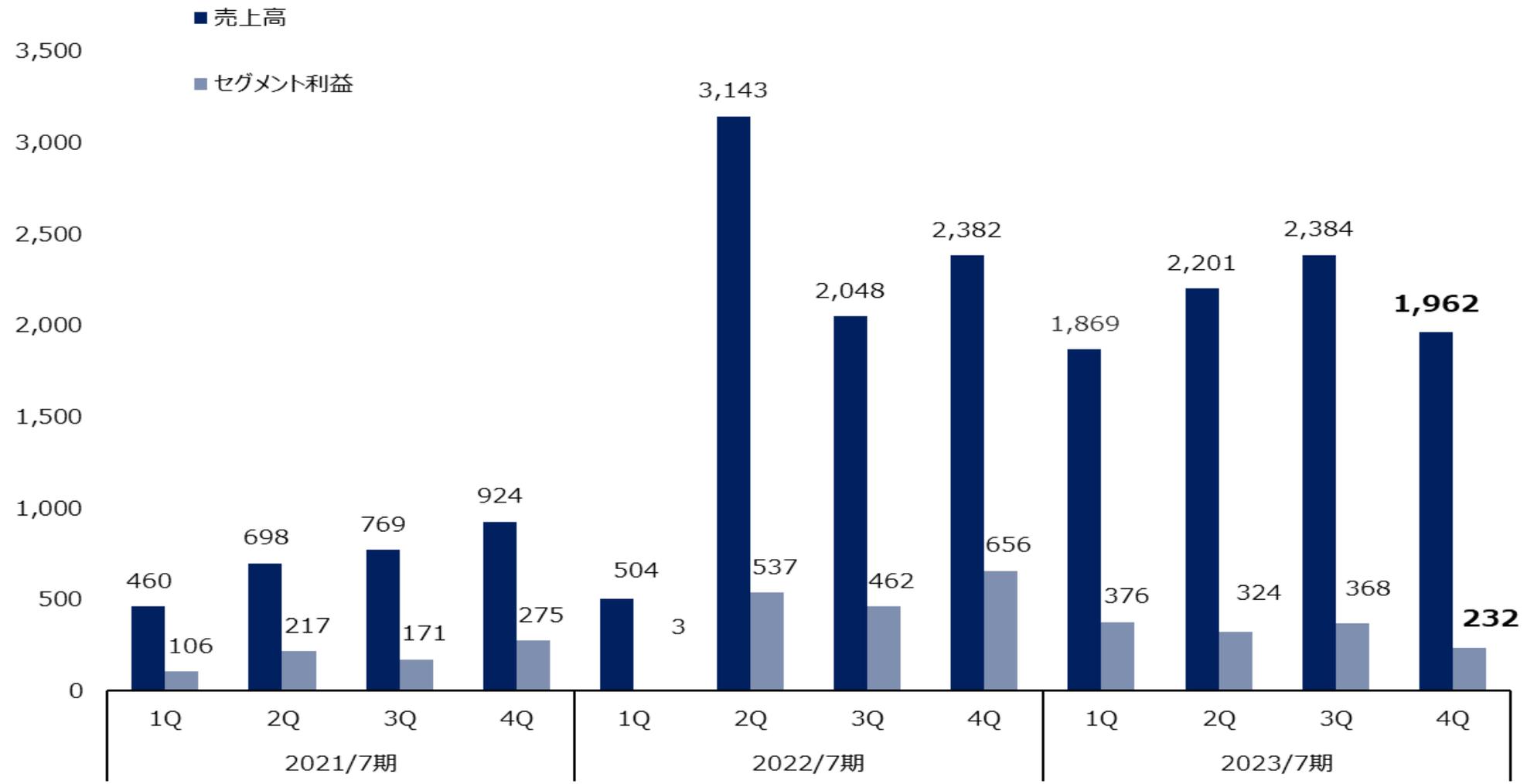
機能性表示食品受理件数

関与成分別受理件数ランキング(2023.9.21) **全7,505件** (件)

順位	機能性関与成分	受理数
1	GABA	999
2	難消化性デキストリン	492
3	ルテイン・ゼアキサントン	392
4	ビフィズス菌	381
5	DHA/EPA	348
6	ブラックジンジャー由来ポリメトキシフラボン	294
7	イチョウ葉(フラボノイド配糖体、テルペンラクトン)	197
8	葛の花由来イソフラボン	164
9	アスタキサントン	167
10	L-テアニン	150

四半期業績推移

(百万円)



機能性素材PharmaGABAが好調、国内販売では過去最高の売上を獲得。
 明治薬品の医薬品製造受託が安定して売上及び利益を下支え。



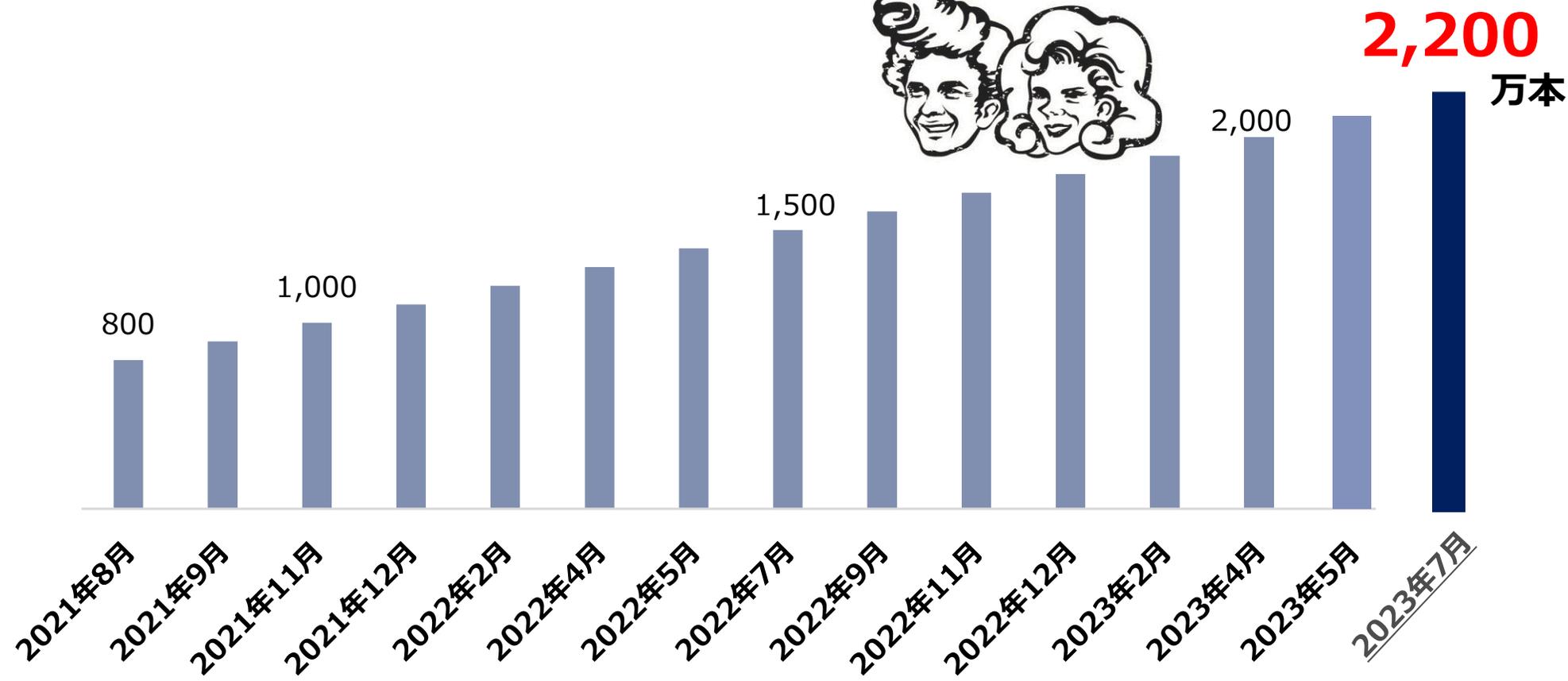
B to C 事業

ニューモ育毛剤、累計出荷2,200万本突破



今期52日間で100万本ペースを継続

Newmo



※2023年7月22日時点

新製品の育成



「まつモデラックスWMOA（ウモア）」

累計出荷**230万本**突破

「DRcula(キュラ)ホワイトニングジェル」

累計出荷**130万本**突破

「ラクトロンシリーズ」

累計出荷**128万本**突破

目ヂカラ
上がる

まつ毛の美意識
売上
世界一

WMOA

※2022年の年間メーカー出荷金額、まつ毛やまぶたのまわりに使われ、まつ毛に「まつ毛の美意識」を込めた美容液や化粧品（2023年9月現在）の「まつ毛の美意識」を追求する株式会社タマゴキチ

タマゴ由来
まつ毛生え際保護成分
HGP 配合
※特別なりぞレシチン



卵を21日間温めるだけで、ヒヨコがイキイキと生まれる。この力を人間にも役立てようと酵素工学を駆使し、卵黄から「まつ毛生え際保護成分HGP®※」を開発！試験の成果を発表し、大反響に！その注目の成分「まつ毛生え際保護成分HGP®※」を贅沢に配合したのが『まつモデラックス』なのです。

長年の研究により生命のカプセルから
ファーマフーズが開発



※2023年9月8日時点

DR CULA(キュラ)
薬用ホワイトニングジェル

洗浄力に優れた“卵殻アパタイト配合”

歯の洗浄

ホワイトニング

おうちで気軽に♪集中ケア

笑顔に自信

※2023年9月8日時点

腸にとどまる
乳酸菌

2種類の
消化酵素

胃と腸の
Wケア
処方

Customer Satisfaction Comes First
明治薬品株式会社
腸内細菌のバランスを整える
ラクトロン錠

乳酸菌・消化酵素配合

消化不良による
腹部膨満感 整腸
(便通を整える)

食欲不振 もたれ
(胃もたれ)

整腸・消化薬
指定医薬部外品

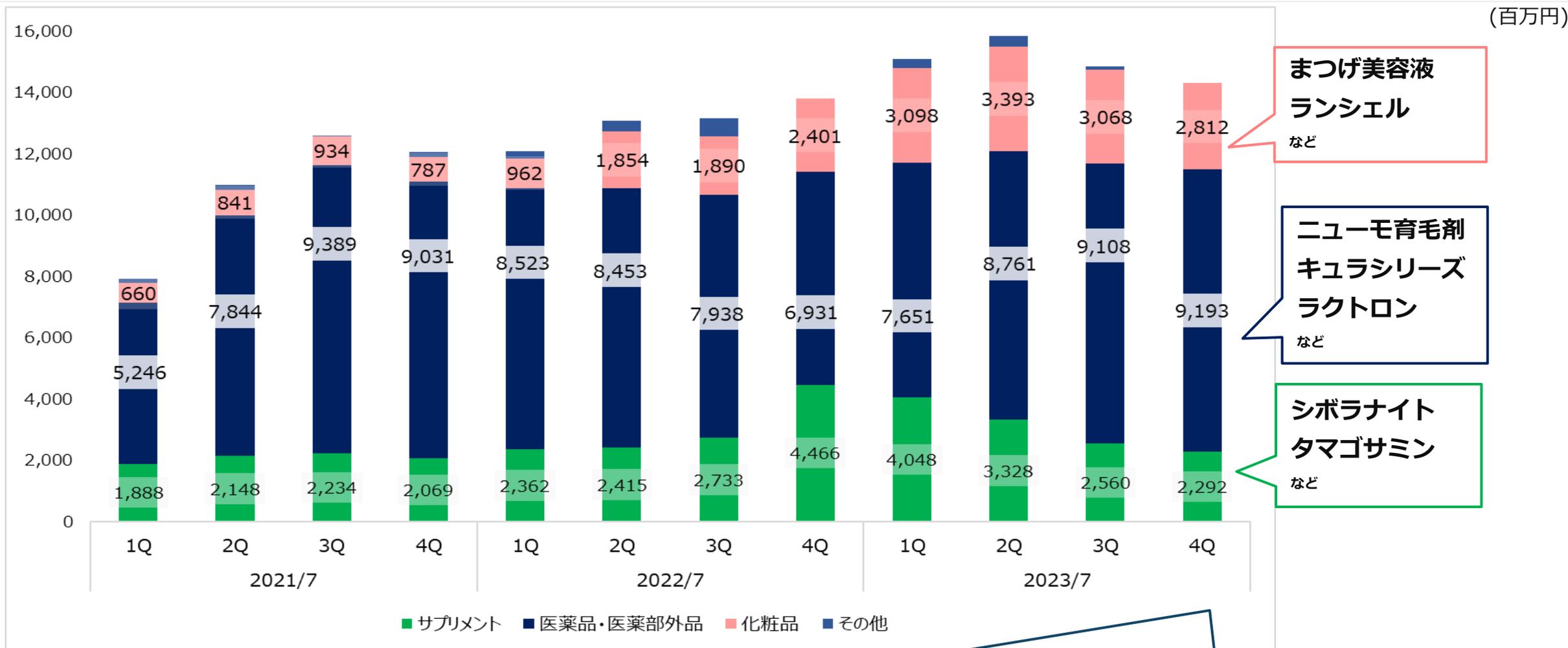
180錠

胃もたれ
改善

便秘
改善

※2023年9月20日時点

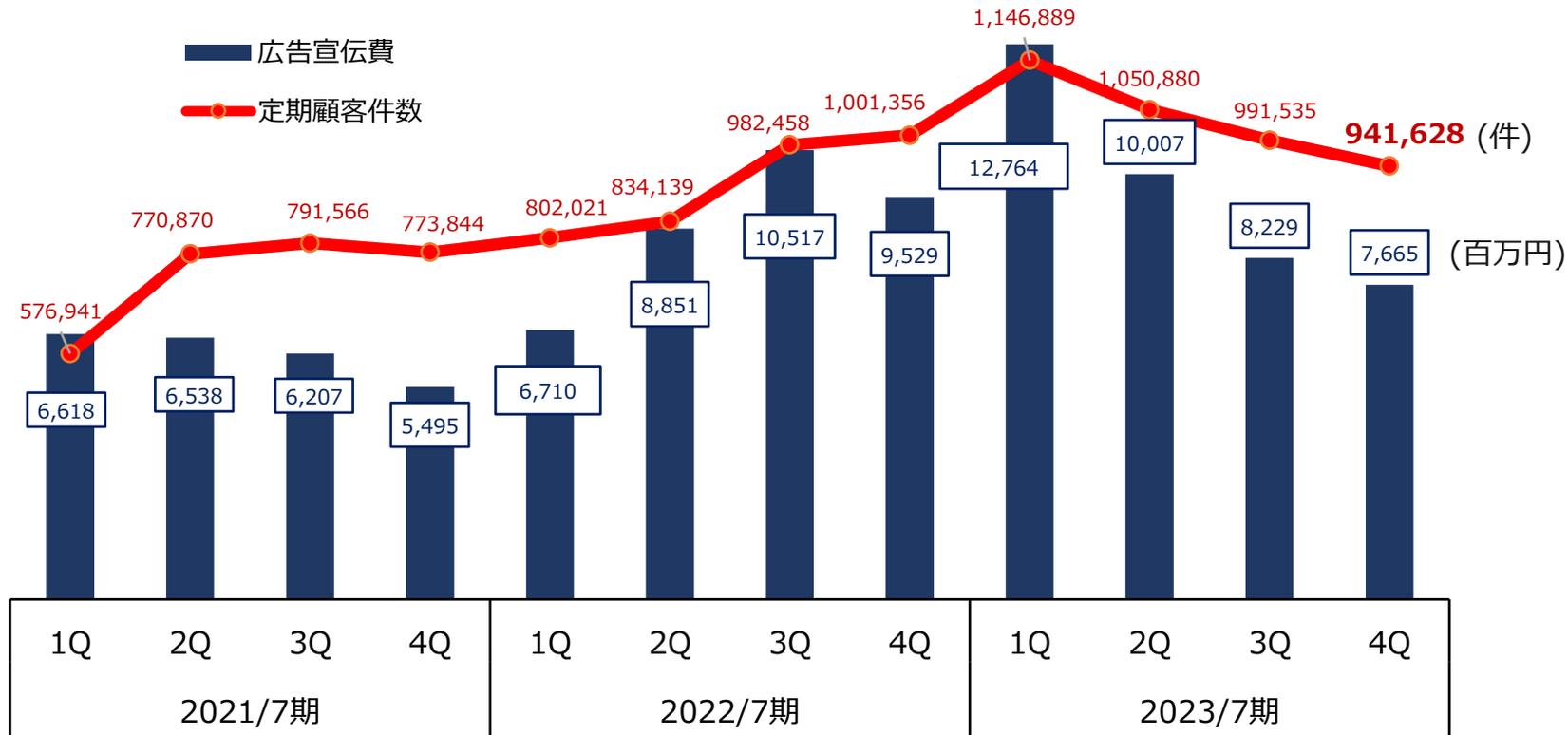
カテゴリー別売上高



主力のニューモ育毛剤が安定的に推移、ホワイトニングジェル等の新製品が成長。

これまで主要製品別に売上高を開示しておりましたが、収益分解情報をより適切に反映させるため及び競合上の配慮のため「サプリメント」、「医薬品・医薬部外品」、「化粧品」に区分しております。

広告宣伝費と定期顧客件数



主要製品の定期顧客件数

まつげ美容液 :	70,365
ランシェル :	33,782

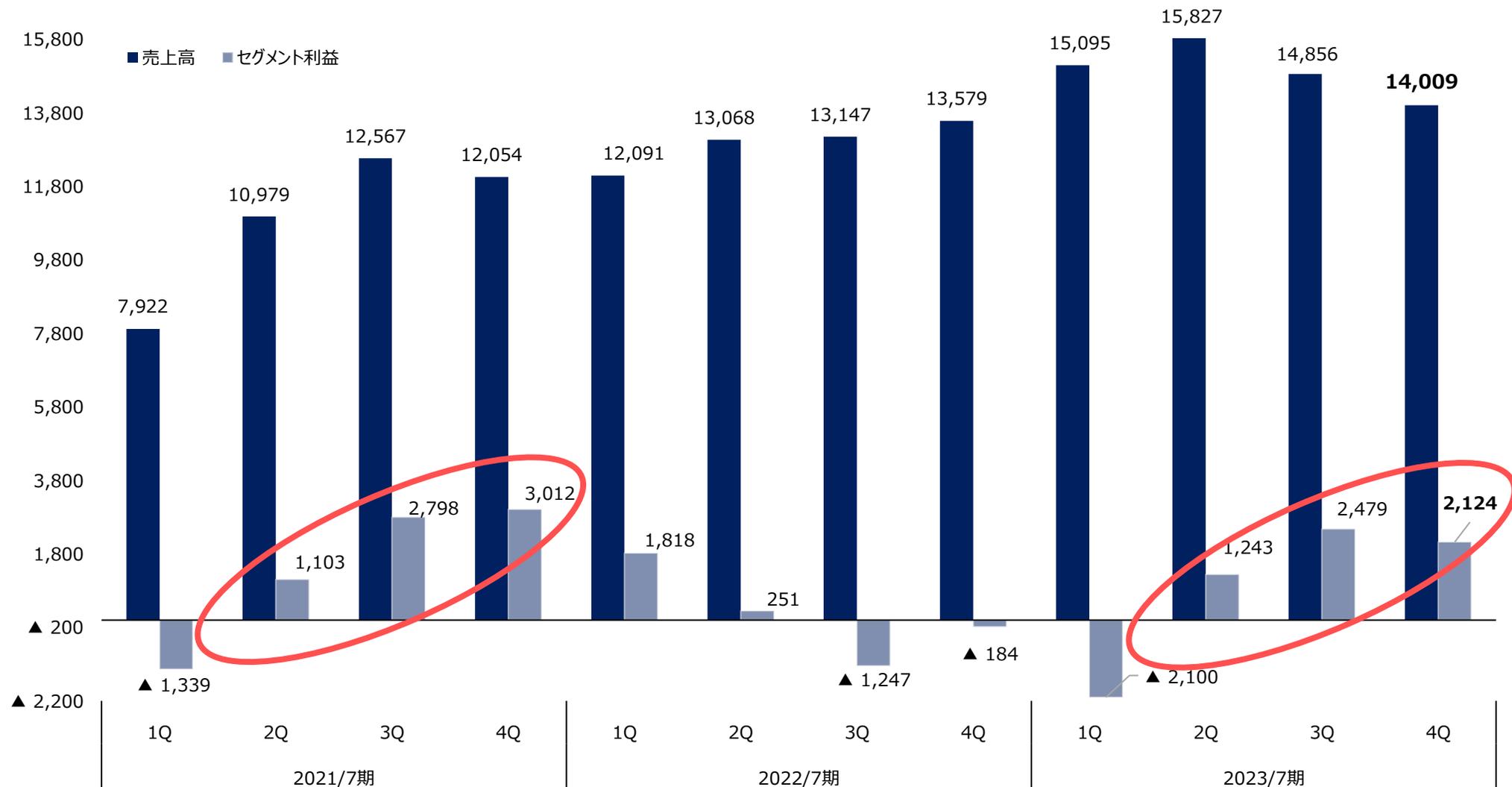
ニューモ育毛剤 :	434,527
キュラシリーズ :	107,392
ラクトロン錠 :	47,340

シボラナイト :	15,501
シボラナイト2 :	42,708
タマゴサミン :	34,505

広告投資の適正化を実行することで、定期顧客件数は相対的に高い水準を維持。

四半期業績推移

(百万円)



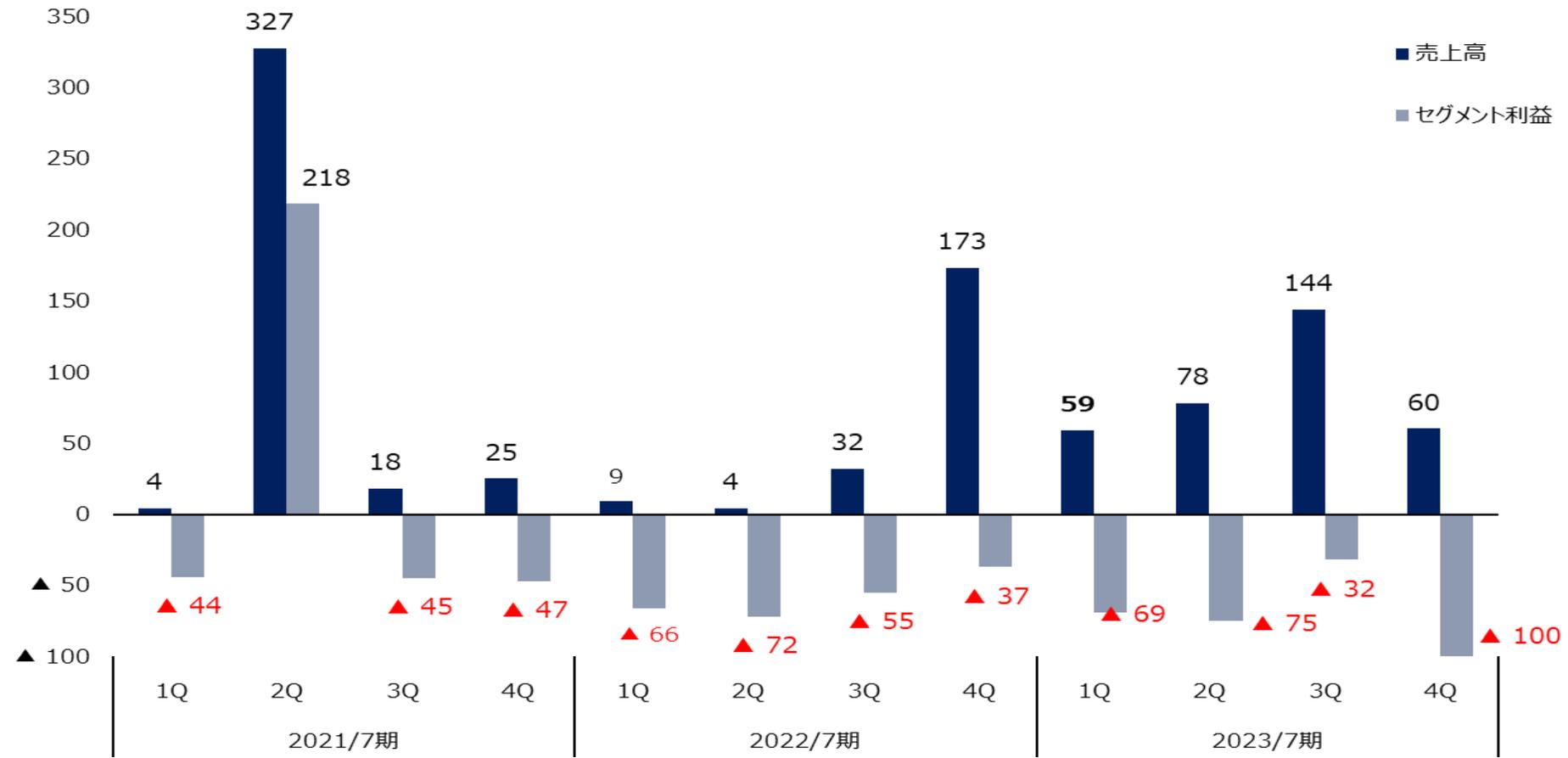
広告投資の適正化を実行しつつ売上水準を維持。
積極的な新製品への投資と安定的に利益を出す構造へ、



バイオメディカル事業

四半期業績推移

(百万円)



【抗体創薬】 自己免疫疾患プロジェクトが順調に進捗し、臨床入り目前。全国の大学との共同研究により、新規パイプラインを拡充。

【受託サービス】 プロテオーム解析サービス「OLINK」が増収に寄与。大手製薬企業からの受注が相次ぐ。

【プロテオーム解析】タカラバイオとの業務提携(2023年7月)

【バイオメディカル事業と統合したアプローチの技術】

- ・ 2022年6月、国内初「Olink Target」受託サービス
- ・ 2023年2月、「Olink Flex」受託サービス

→血清中の極めて微量なタンパク質の定量をすることが可能な革新的技術。
バイオメディカル事業の経常的な売上の獲得に貢献。

業務提携のスキーム



ワンストップで包括的な
プロテオーム解析の提案が可能に

タカラバイオ

幅広く解析

ファーマフーズ
アプローチ

詳細に解析





2024年7月期業績予想

新価値創造を社会実装まで見据えた投資を開始する

(百万円)

	2023年 7月期	2024年 7月期予想
売上高	68,572	72,047
営業利益	3,610	3,338
経常利益	3,540	3,300
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,081	2,784

卵殻膜を用いた高付加価値素材及びバイオスティミュラントの研究開発を先行しているが、今後将来の社会実装まで見据えた、本格的な研究開発投資及び設備投資を行っていく。

株主還元

	2023年 7月期	2024年 7月期予想
一株あたり 年間配当金	22円	20円
配当金総額	6.3億円	5.7億円
親会社株主に帰属する 当期純利益	30.8億円	27.8億円
配当性向	20.6%	20.7% ※
自己株式取得	3億円	—
総還元性向	30.3%	20.7% ※

※ 2023年9月11日発表の業績予想の親会社株主に帰属する当期純利益に基づく

株主還元方針

当社は、企業の成長性と収益性を両立させる事業方針の下、研究開発、広告宣伝及びM&A等に対する積極的な投資を拡大させながら、株主様に対する還元策として配当等を積極的に充実させていくことを基本方針としております。この方針の下、成長投資の推進、財務健全性の確保及び株主還元の強化のバランスを考慮し、自己株式取得を含む総還元性向20%を株主還元策の目安としております。

中期経営計画2026

「新価値創造 **1K**」

プロジェクト

売上高の構成イメージ

「新価値創造 1K」

新価値創造に取り組み、5年後売上高**1,000**億円を目指す

売上高目標

5年後の売上高構成イメージ



今後の重点分野

「新価値創造 1K」

1 新製品

明治薬品、製薬メーカーへの変革を目指す



2 新市場

卵殻膜、アグリ・ニュートリションは社会実装のための投資フェーズへ

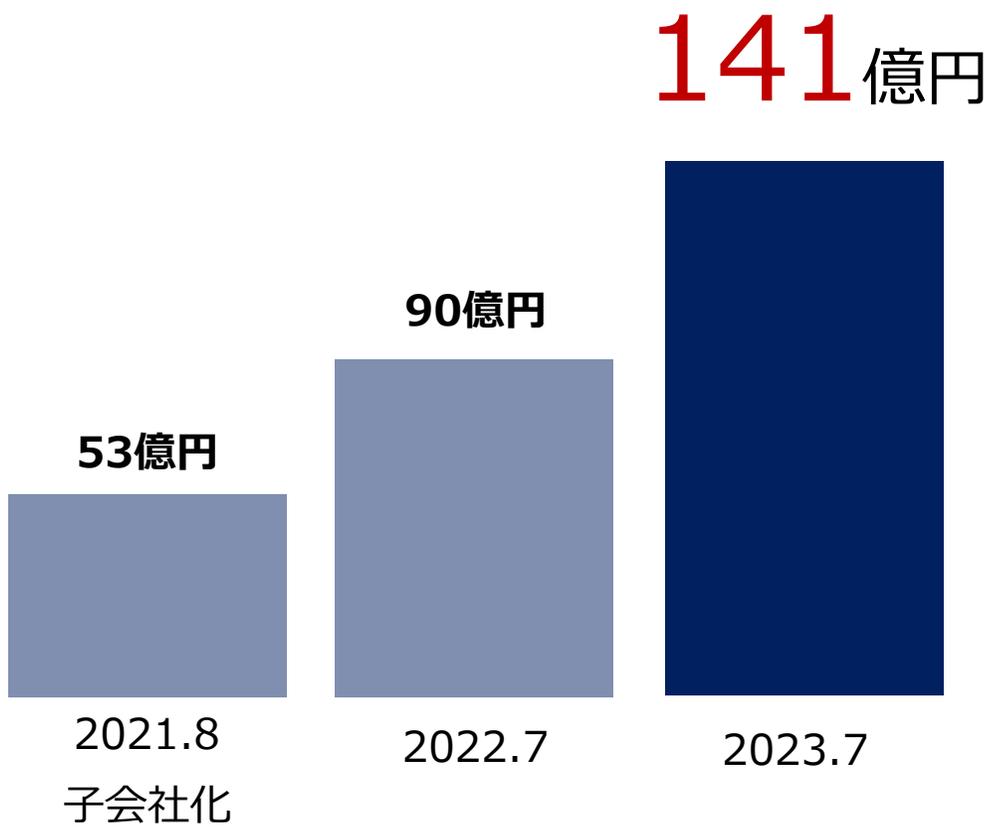


3 新組織

BtoBから“**BtoC**”へビジネスモデルの転換
マーケティング本部、グローバル事業本部を新設



M&A後の売上高



M&A後は

- ・ 75年の歴史に蓄積された技術・ノウハウの見直し（通販参入）
- ・ 受託部門の稼働率、受注単価改善



今後は

製薬メーカーへ進化する ための新工場建設へ

卵殻膜アップサイクルプラットフォーム

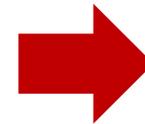


アグリ事業の“バイオスティミュラント(BS)”

社会実装を見据え、大規模圃場試験と生産体制の検討



全国の10ヶ所以上圃場でBSの試験を行った

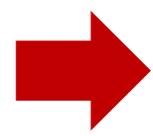


- ・ **トマト、パプリカ**（野菜）
収穫率が5%増加
- ・ **マーガレット**（花）
耐病性の向上
- ・ **水稻**（米）
収穫率が15%増加

BtoBから“BtoC”へビジネスモデルの転換



自社ブランド
BtoC製品群



国内大手のコンビニエンスストア、ドラッグストア、量販店、スーパーへ販売拡大を目指す

新たな組織体制、人員、マーケティングを強化

M&A、アライアンスに注力

2021年3月	三洋化成工業(株)	▶資本業務提携（約4億円） 化粧品、アグリニュートリション、医薬品等の研究開発及び販売の連携
2021年7月	ロート製薬(株)	▶資本業務提携（約6億円） ヘルス&ビューティケア及び食分野の製品開発、生産、販売の連携
2021年8月	明治薬品(株)	▶完全子会社化（約23億円） 医薬品製造、ドラッグストア販路等の経営資源を活用
2021年8月	(株)アイ・ブレインサイエンス	▶第三者割当増資の引受（6千万円） 認知機能低下の早期発見及びその改善のための機能性食品の組み合わせ
2022年4月	(株)アンテグラル	▶吸収分割 当社の抗体作製技術「アラジン テクノロジー」と、アンテグラルが持つプロテオーム解析技術を組み合わせることで創薬ターゲットの探索・同定をより強化
2022年5月	オンキヨー(株)	▶持分法適用関連会社化 健康・医療機器の販売及びAIを活用した創薬標的探索などの新規事業を推進
2022年5月	(株)PF Capital	▶子会社化 創薬事業及びヘルスケア事業の技術獲得を目的にCVC運営会社を譲受け
2023年3月	(株)エルビー	▶資本業務提携 機能性素材を活用した飲料等の共同開発、共同開発製品に関するエルビーの工場における生産、大手流通等への共同営業による販売強化
2023年10月	(株)ダイセル	▶事業譲渡 ヘルスケア通販事業の譲り受け



資本コストや株価を意識した経営
の実現に向けた対応について

数値目標

売上高目標



コミットメント

売上高成長率20%

当社グループは規模の拡大による成長性を重視しております。新規事業やM&Aを通じて、2026年7月期までの売上高年平均成長率20%以上を実現します。

総還元性向20%

研究開発、広告宣伝及びM&A等に対する積極的な投資を拡大させながら、株主様に対する還元策として配当等を積極的に充実させていきます。この方針の下、自己株式取得を含む総還元性向20%を株主還元策の目安としております。ただし、中期経営計画の進捗に照らした株価水準と市場との間に大きな乖離が生じていると判断した場合は、この限りではありません。

利益水準の考え方

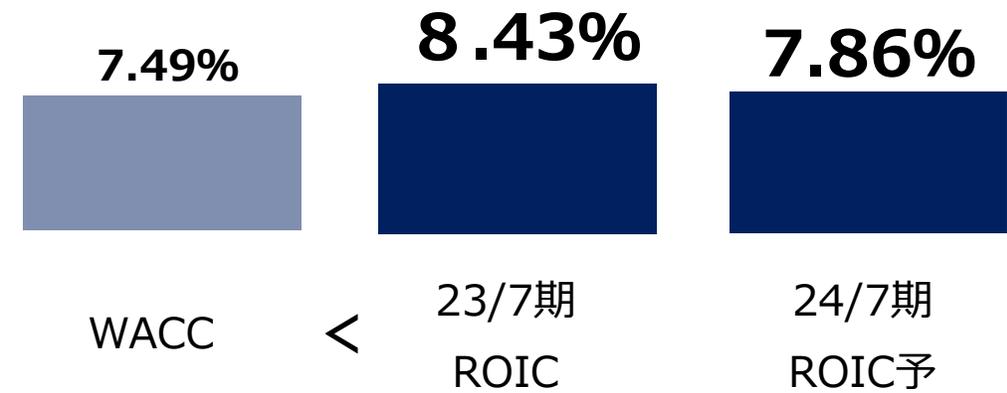
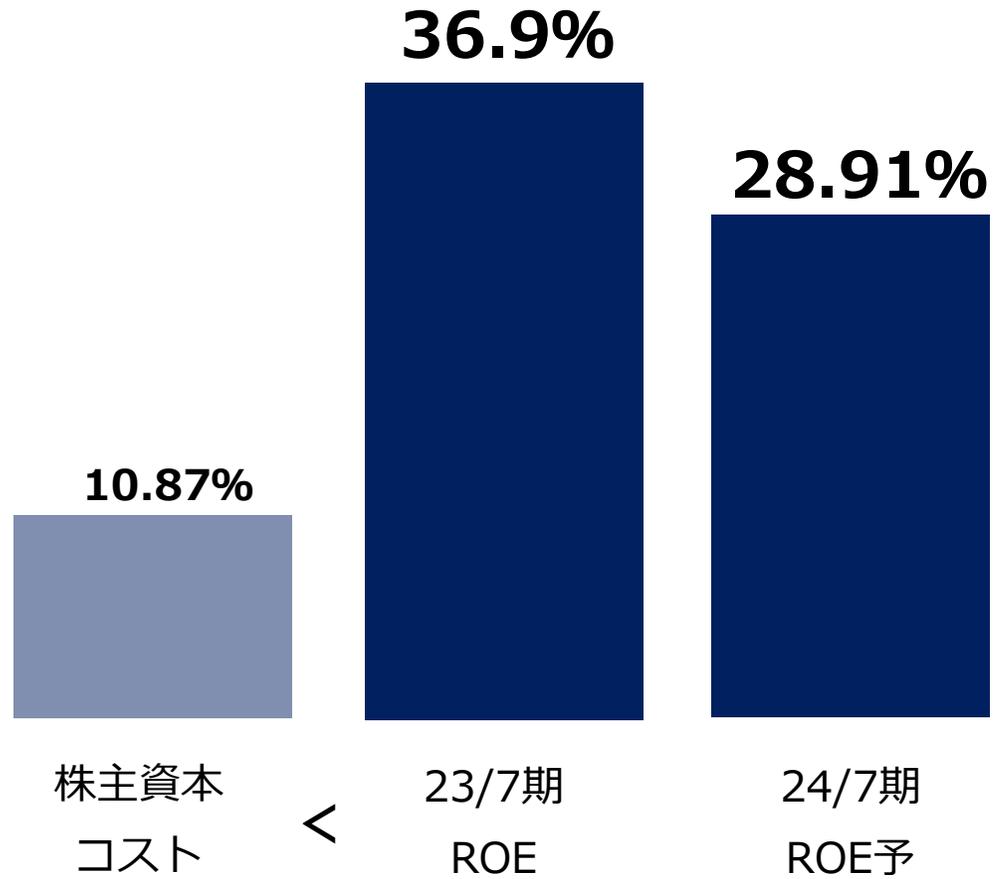
営業利益率 10%

2026年7月期までは、大胆にリスクをとりながら規模の拡大を目指してまいります。平均的に10%の営業利益率が確保できる体制を目指してまいります。ただし、単年度における利益率が低下することを恐れず事業展開を行います。

PBRは継続的に3倍超え



資本コストを上回る収益性を確保



本業による資本収益性を今後高めていくとともに、投資家との対話も図りながら資本コストの引き下げ、さらなる企業価値向上につなげていく。



Appendix

免疫

老化

神経

B to B 事業

機 能 性 素 材
医 薬 品 製 造 受 託



B to C 事業

発 明 企 業 の 通 販 事 業

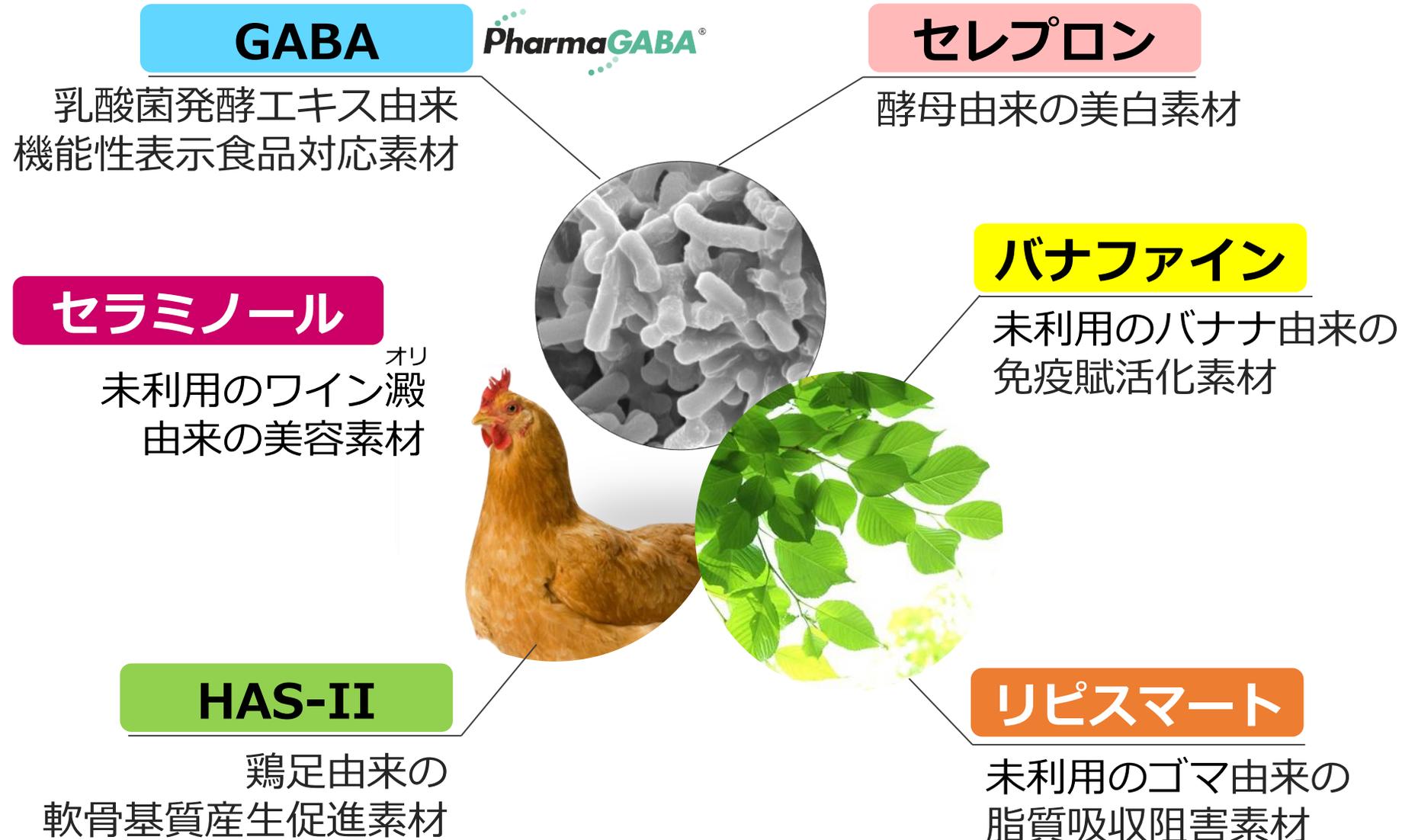


創 薬 事 業

Drug Discovery
プロテオーム解析



“天然由来”の原料から機能性素材を探索



“タマゴ”から食品・化粧品の機能性素材を探索



iHA (アイハ)

軟骨増殖

ボーンペップ

骨形成促進



HGP

育毛促進

ランペップ

血流改善



葉酸たまご

核酸の合成



ランシエル

未利用の卵殻膜由来の
肌改善美容素材



“発明企業の通販事業”として、健康食品・化粧品・医薬品等を販売



健康食品



化粧品



医薬品・医薬部外品



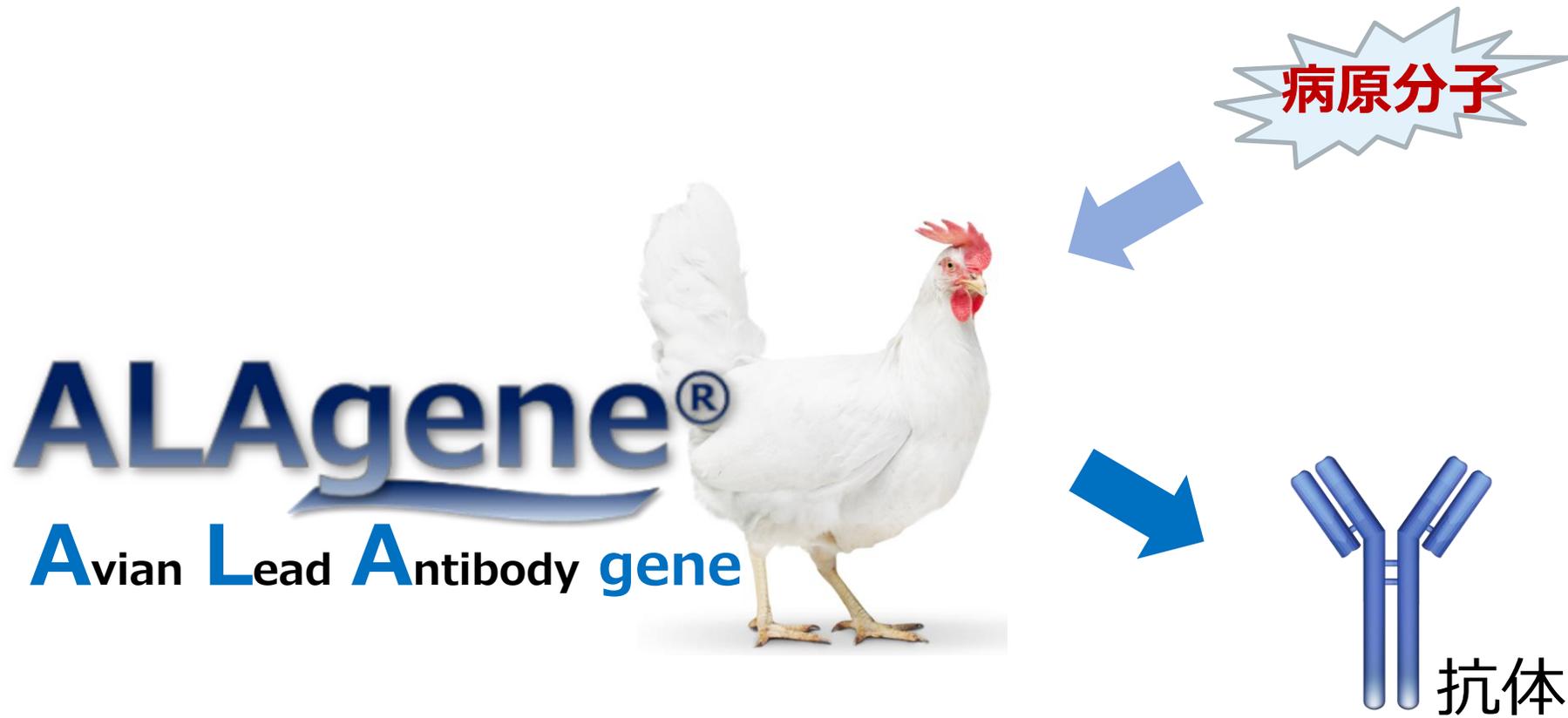
通信販売事業の収益構造

広告宣伝費は、顧客獲得時に計上するものの、売上高は定期コース継続中にわたって計上し、**売上高と広告宣伝費の発生時期が異なる構造**

収益構造のイメージ



“ニワトリ”から抗体医薬品を作る



1

作製困難抗体

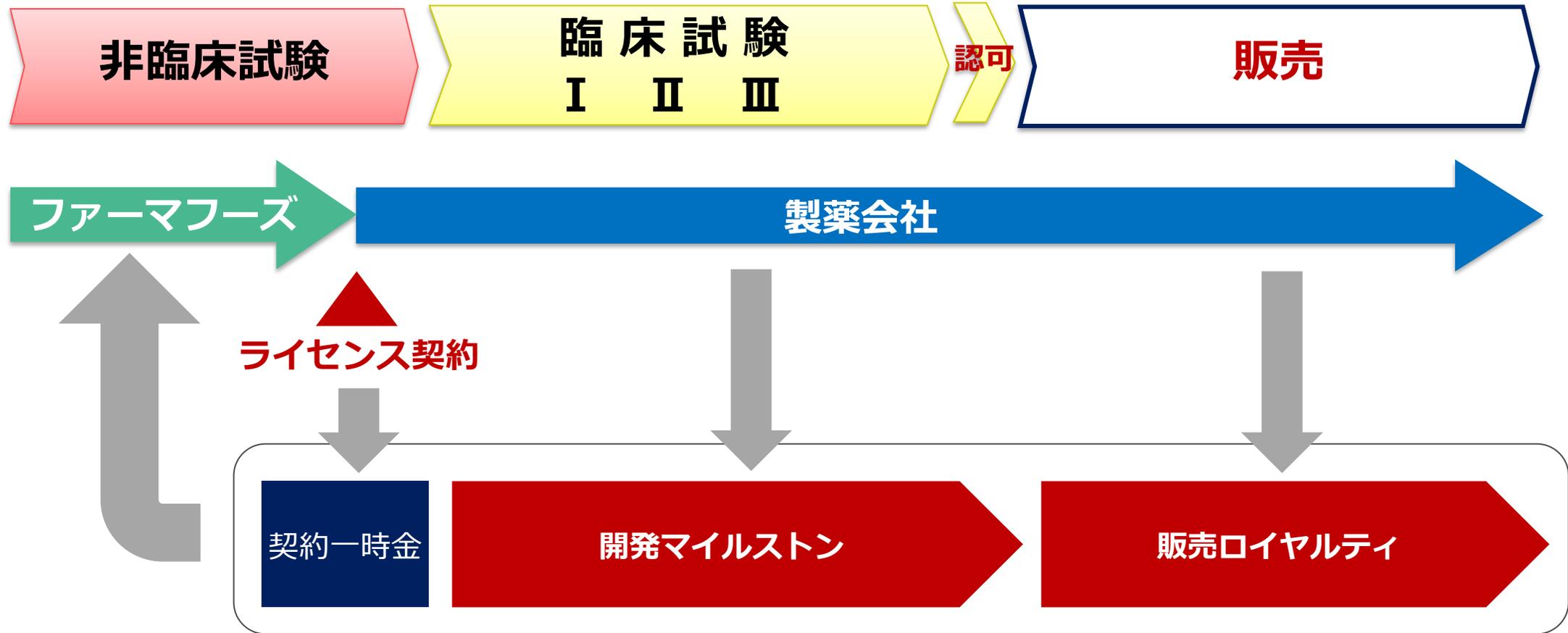
2

高結合力

3

ヒト化抗体

当社の特許を製薬企業へ実施許諾することにより、ライセンス収入を得る



自己免疫疾患治療マーケットは5兆円以上

関節リウマチ治療薬のマーケット

分類	製品名	世界売上高 (2020年度)	販売会社
抗TNF α 抗体	ヒュミラ	1兆3,062 億円	米AbbVie社/エーザイ
可溶性TNF α /TNF β 受容体制剤	エンブレル	4,743 億円	Amgen社/Pfizer社/武田薬品工業
T細胞選択的共刺激調節薬	オレンシア	2,868 億円	米Bristol-Myers Squibb社/小野薬品工業
抗TNF α 抗体	シンポニー	2,774 億円	米Johnson & Johnson社/米Merck社/ 田辺三菱製薬
ペグ化抗TNF α 抗体Fab断片製剤	シムジア	2,289 億円	ベルギーUCB社/アステラス製薬
抗IL-6受容体抗体	アクテムラ	2,115 億円	スイスRoche社/中外製薬
抗TNF α 抗体	レミケード	1,686 億円	米Johnson & Johnson社/米Merck社/ 田辺三菱製薬

M&A、アライアンスに注力

2021年3月	三洋化成工業(株)	▶資本業務提携（約4億円） 化粧品、アグリニュートリション、医薬品等の研究開発及び販売の連携
2021年7月	ロート製薬(株)	▶資本業務提携（約6億円） ヘルス&ビューティケア及び食分野の製品開発、生産、販売の連携
2021年8月	明治薬品(株)	▶完全子会社化（約23億円） 医薬品製造、ドラッグストア販路等の経営資源を活用
2021年8月	(株)アイ・ブレインサイエンス	▶第三者割当増資の引受（6千万円） 認知機能低下の早期発見及びその改善のための機能性食品の組み合わせ
2022年4月	(株)アンテグラル	▶吸収分割 当社の抗体作製技術「アラジン テクノロジー」と、アンテグラルが持つプロテオーム解析技術を組み合わせることで創薬ターゲットの探索・同定をより強化
2022年5月	オンキヨー(株)	▶持分法適用関連会社化 健康・医療機器の販売及びAIを活用した創薬標的探索などの新規事業を推進
2022年5月	(株)PF Capital	▶子会社化 創薬事業及びヘルスケア事業の技術獲得を目的にCVC運営会社を譲受け
2023年3月	(株)エルビー	▶資本業務提携 機能性素材を活用した飲料等の共同開発、共同開発製品に関するエルビーの工場における生産、大手流通等への共同営業による販売強化
2023年10月	(株)ダイセル	▶事業譲渡 ヘルスケア通販事業の譲り受け